

各関係機関長 様

熊本県病虫害防除所長

ハスモンヨトウの発生状況と防除対策（技術情報9号）について（送付）

合志町に設置しているハスモンヨトウのフェロモントラップにおいて、7月6半旬にピークとなり、誘殺数が平年より非常に多くなっています。今後、ダイズ、野菜類等への被害が懸念されますので、発生動向に注意して防除指導をお願いします。

記

1. 対象病虫害     ハスモンヨトウ
2. 対象作物       ダイズ、野菜類、花き類等
3. ハスモンヨトウの発生状況
  - 1) 生産環境研究所（合志町）のフェロモントラップにおける誘殺数は、6月5半旬より急増し、6月6半旬にピークとなり、平年より非常に多く推移した（技術情報6号参照）。その次世代のピークが7月6半旬となり、7月6半旬の誘殺数は591頭（平年値146頭）と平年より非常に多く推移している（図1）。  
い業研究所（鏡町）のフェロモントラップにおける誘殺数は、平年並であるが昨年よりやや多く推移している（図2）。
  - 2) サトイモ、レンコンにおいて、8月上旬にハスモンヨトウの若齢幼虫が発生し、被害が確認された。また、ダイズではハスモンヨトウ若齢幼虫による白変葉が確認された。例年、ダイズ圃場では8月中下旬より発生が多くなるため、今後の発生には十分注意して防除を行う必要がある。
  - 3) 気象予報によると、1ヶ月予報では気温、降水量ともに平年並の予想であるが、3ヶ月予報では気温は高く、降水量は平年並の予想である。このため、ハスモンヨトウの発生は平年より多くなる可能性が高い。
4. ダイズにおける防除上の注意事項
  - 1) 若齢幼虫は集団となって食害し、その後周囲に分散するので、初期の食害発生に注意し、卵塊や白変葉（若齢幼虫による被害葉）を見つけしだい捕殺する。
  - 2) 老齢幼虫に対しては薬剤の効果が低い。早期発見に努め、防除効果の高い若齢幼虫期に薬剤散布を行う。
  - 3) 薬剤散布を行う場合には抵抗性発達を回避するため、同一系統薬剤の連用は避ける。
  - 4) 農薬の使用にあたっては、必ず農薬ごとに定められた使用基準を守り、安全な農作物の生産に努める。

熊本県病虫害防除所ホームページアドレス

<http://www.jppn.ne.jp/kumamoto>

問い合わせ先

熊本県農業研究センター

生産環境研究所病虫害研究室

予察指導係（病虫害防除所）

担当： 樋口

TEL096-248-6490

FAX096-248-6493

フェロモントラップにおけるハスモンヨトウの誘殺状況

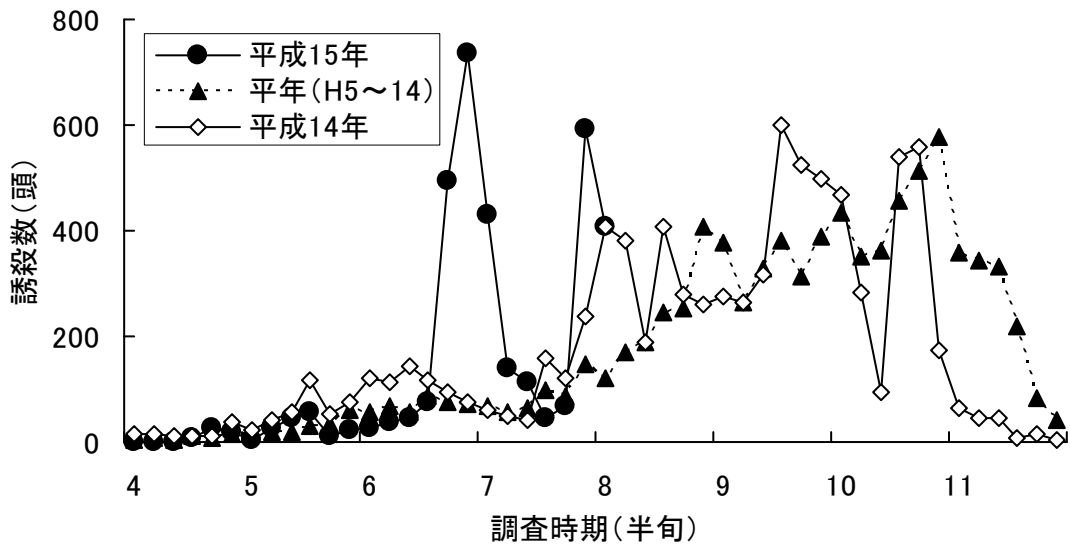


図1 生産環境研究所 (合志町)

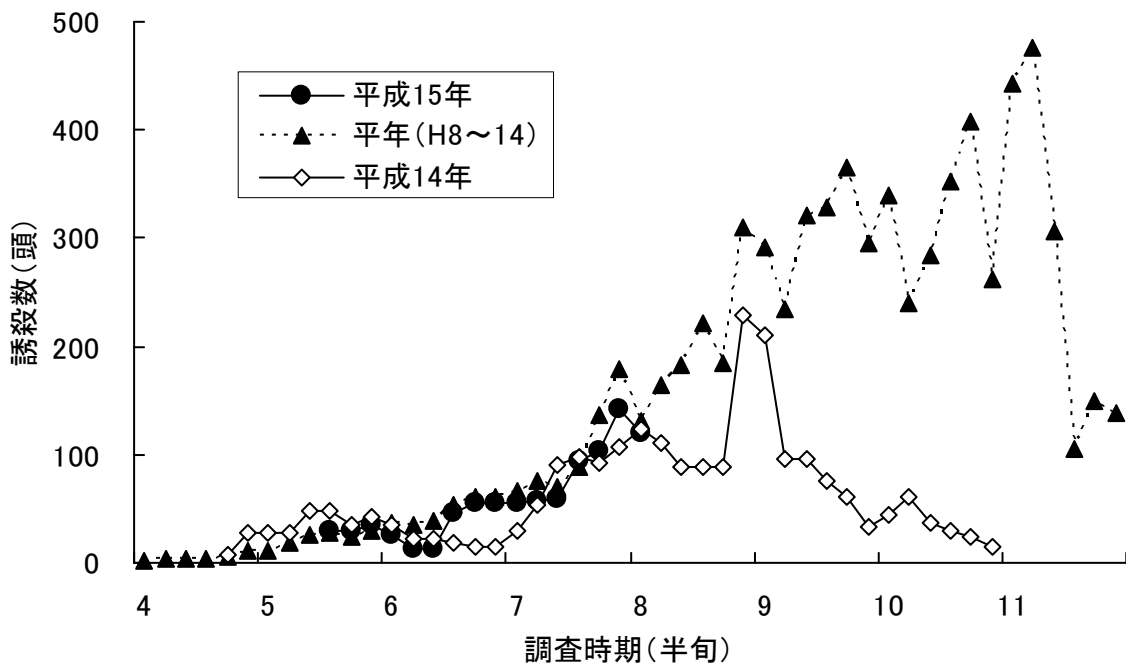


図2 い業研究所 (鏡町)